

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教育学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 実践的教育科目群の質を検証するために、教員相互の情報交換の場を設け、授業の質を確保する。	→ 「履修者数規模別の授業科目数」「少人数授業の授業形態の調査」「マルチメディア教室の稼働率」「演習・実習科目担当者会議における検討状況」	B	B			
2. 実習科目等における学生へのガイダンスおよび事前事後指導のありかたの検討と改善を図る。	→ 「実習委員会の検討状況」「実習生に対する外部評価内容」	B	B			
3. 教員・保育士養成課程の充実と改善のために、教員・保育士養成課程担当者会を月1回開催する。	→ 「幼稚園教員・保育士養成課程担当者会の検討状況」「小学校教員養成課程担当者会の検討状況」	B	B			
4. 学生による授業評価を積極的かつ効果的に活用する。	→ 「学生による授業評価に基づいた授業改善の方策の作成と公表の実施率」	B	B			
5. 授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修会を年2回実施する。	→ 「FD委員会、研修会での検討状況」	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 (説明) 実践的教育科目群については、学生の主体的参加を促し、授業の質を保障するため少人数制(1クラス50人以下)の授業を多く開講している(全体の85%以上)。また、授業運営に関する科目担当者会を月に1度のペースで開き、教員相互の情報交換を行っている。 学部設置申請をしているため、教育課程の大幅な改編は完成年度(=2012年度)までできないので、年間の履修単位数の上限を50単位未満にすることは難しい。2013年度以降については、学部再編のための将来ビジョン委員会で検討している。
小項目6.3.2	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 (説明) 全科目について学部ホームページ上にシラバスを掲載し、学生が授業内容を確認できるようにしている。さらに、実習科目については、実習の目的等を記した教育学部独自の実習要項を作成し、学生に配布して丁寧なガイダンスを行っている。また、物理的理由により時間割に組み込むことのできない実習の事前・事後指導については、土曜日等に組み込み、内容的に重なっている部分を整理している。そのために、担当者会および、実習委員会を月に1度開催してシラバスの内容と齟齬がないよう指導内容に関する情報交換を行い、授業の質を向上させる工夫をしている。
★ 小項目6.3.3	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 (説明) 成績評価については、ホームページ掲載のシラバスに明示して、学生に周知し、その方法に基づいて行うようにしている。GPA値については、学部平均は、1年生春学期2.27、秋学期2.34、2年生は春学期2.31、秋学期2.36である。なお、成績優秀者を掲示して顕彰を行っている。単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性については、学部全体で充分検証するまでには至っていない。
小項目6.3.4	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 学部全体で行う授業評価のみでなく、実習関連科目については、受講者を対象としたアンケート調査を行い担当者会でその結果を検討して授業改善に活かすようにしている。また、授業内容および方法の改善を図るため、特に幼稚園教員・保育士養成課程と小学校教員養成課程の科目担当者会をそれぞれ1~2カ月に1度開催して情報交換や課題の検討・整理を行い、教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけるようにしている。
その他	各学期の終わりに(年2回) 教員相互の情報交換と研修の場を設け、これをFDの一環として位置づけ、授業内容や方法の改善を図るようにしている。

《評価指標データ》

履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
 少人数授業の授業形態の調査
 規模別講義室・演習室使用状況
 マルチメディア教室の稼働率
 遠隔授業を活用した授業の比率
 各年次 Semester ごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
 成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
 GPA値(全学、学部別、男女別など)
 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
 オープン授業(授業公開)の全授業における割合
 学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
 大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】
 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	科目担当者会の開催による教員間の授業目的の共有化と授業内容の改善。
小項目6.3.2	実習要項(冊子)の作成。各実習担当者会による事前・事後指導内容の調整。
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	幼稚園教員・保育士養成課程担当者会および小学校教員養成課程担当者会の開催と情報交換。学生を対象としたアンケート調査結果の授業改善への活用。
その他	授業内容や方法に関する情報交換。

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	複数教員で担当する実践的教科目について、継続的に月1回程度のペースで担当者会を開催し、授業改善を図る。
小項目6.3.2	授業科目担当者のみでなく、実習校・園および学生の授業評価も参考にして、実習委員会において実習要項内容の見直しを行い、改善を図る。事前・事後指導の時間確保と指導内容の充実を継続的に検討する。
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	継続的に1~2か月に1回のペースで幼稚園教員・保育士養成課程担当者会および小学校教員養成課程担当者会を開催し、課題を整理して、完成年度以降の教育課程に活かす。学年進行に従って開講される実習関連科目について、実習後に学生へのアンケート調査を実施し、4年間全体の教育内容について検証する。
その他	継続的に情報交換や研修の場を年2回設けて、学部の全専任教員に参加を呼びかけ、教育方法および学習指導の質を高める。

◎改善すべき事項

※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	実習科目の事前・事後指導の時間確保。
★小項目6.3.3	幼稚園教員・保育士養成課程担当者会と小学校教員養成担当者会での教科目に関する課題の整理。
小項目6.3.4	アンケート結果に関する学生へのフィードバック。実習校・園からの意見聴取。
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	すべての実習の事前・事後指導を充分に行う時間の確保が難しいため、継続的に各実習の事前・事後指導として内容的に重なっているものを整理し、体系的に全実習の事前・事後指導を行う方法を検討する。
★小項目6.3.3	カリキュラム上、および教育方法や学習指導上の課題を改善し、完成年度以降に活かすために、将来ビジョンに関する検討ワーキングチームとそれぞれの委員会の連携を図る。
小項目6.3.4	学生に対するアンケート結果を整理し、改善に向けた方策を学生に伝える。また、実習校・園を対象としたアンケート調査を実施し、学生対象のアンケート調査結果と合わせて、教育方法および学習指導の改善を図る。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

- 「目標」3は、教育課程のあり方に関する事なので、中項目6.2に配置するほうが適切と思われます。
- 大項目6全体に共通することですが、記述が丁寧かつ具体的で、PDCAを意識した教育活動が行なわれていると評価されます。

【学内委員】

- 適切に点検評価が行われています。6.3.4の改善方策が昨年度と同じです。2010年度実施したアンケート調査の結果どのような改善を行ったのか、また、どの点において不十分であったのかなどに言及することが期待されます。履修単位数の上限については、2013年度の認証評価に向けて具体的な検討を行うことが期待されます。
- 教育課程の大幅な改編は完成年度まで出来ないとのことですが、それでも3年次、4年次と履修単数は半期30単位であり多い。履修指導等で適切な単位数となるように指導が必要ではと思われます。
- 成績優秀者の顕彰制度はモチベーションを高める良い施策と思われます。
- 丁寧で誠実な記述です。
- 授業内容・方法とシラバスとの整合性について、授業評価による確認も方法かと思えます。
- 昨年度、改善方策にあげられた事柄について、本年度殆ど記載されておりPDCAサイクルが機能していることが伺えます。ただ、小項目6.3.3におけるワーキンググループは設置されなかったのでしょうか。記述があればよかったですと思えます。

【大学基準協会の、評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置（厳格な成績評価など）が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

○小項目6.3.2&6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」
達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性
- ・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み
- ・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

学内第三者評価を受けて、2009年度の目標3を下記のように修正。

- ★ 3. 教員・保育士養成課程における指導方法の充実と改善のために、教員・保育士養成課程担者会を月1回開催する。